

まちづくりの可視化活用

～可視化がもつポテンシャルをどう活かすか～



石川県小松市
まちデザイン課

1. まずは色々な部署と話をしてみた

都市構造可視化でどのような活用方法があるかを、関係部署と打合せを行ったり、課内でまちづくりについて研修会を実施し可視化に対して触れてもらった。

まずはどんなものか触れてもらおう

◆ 都市構造可視化に触れてもらってまちづくりの思いを拾い出してみる。

・気づきのツールとして、小松市のさまざまな可視化情報を見てもらった。

航空写真と重ねて見やすい
都市計画道路もあれば・・・
防災への活用は・・・



まちづくり部門



交通施策部門



触れてもらいました

公共交通困難地域を
どうするか？

洪水ハザードなど
分かりやすくなれば



防災部門

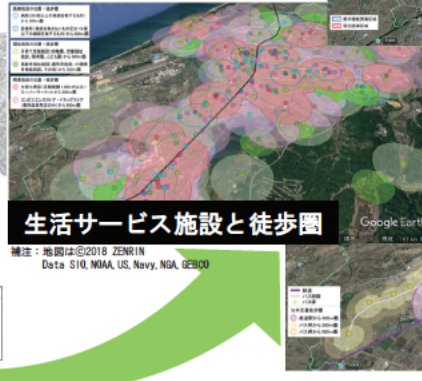
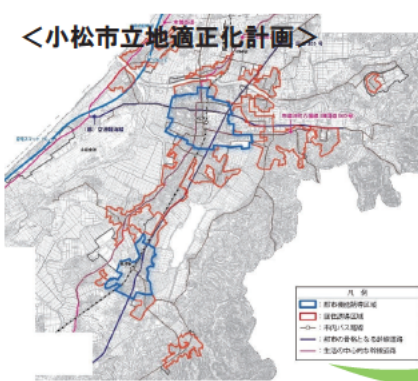
2. まちづくりにつながる情報を可視化

小松市立地適正化計画（H31.3策定）を可視化してもらい、地域コミュニティの維持に必要な生活サービス施設や公共交通網が可視化されたことにより、活用の幅が広がるも期待。

立地適正化計画のGISデータを可視化

- ◆生活サービス施設（医療・福祉・商業）や公共交通網（鉄道・バス）が見える化
- ・まちづくりや交通施策等への活用を検討

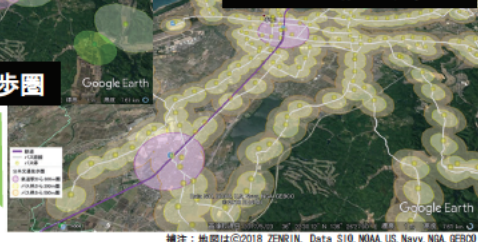
<小松市立地適正化計画>



都市機能・居住誘導区域



公共交通網と徒歩圏



- Q.独自のデータは自分達（自治体職員）で更新作業は可能なのか？
A.GISソフトで編集を行い、可視化に必要なデータ形式に変換が可能。

3. 可視化の今後の活用に向けた方向性①

立地適正化計画の情報を可視化（生活サービス施設、公共交通網）することにより、市街化編入など都市計画行政の手続き（都市計画審議会等）への活用も期待

都市計画に係る手続きへの活用

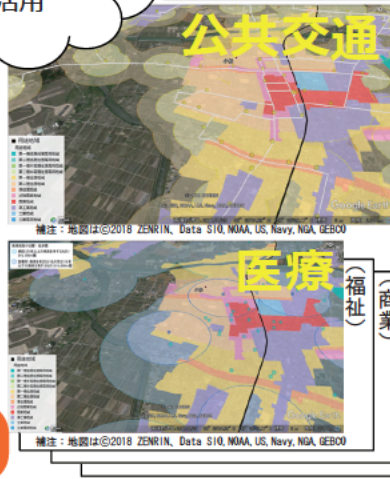
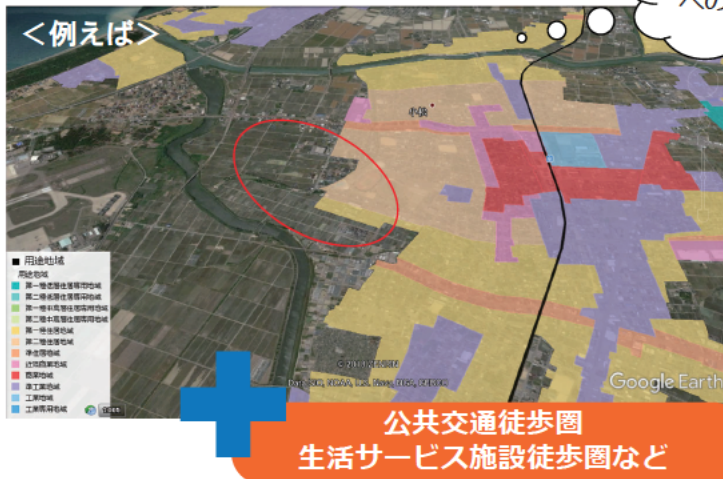
- ◆生活サービス施設や公共交通網が一目瞭然
- ◆市街地化編入など各種審議会等への活用
- ・無秩序な市街化拡大の抑制に対して見える化

各種審議会などへの活用

無秩序な市街地拡大の抑制

- ・新たな市街地を形成する場合は、下記基準に該当することを前提に、農林関連と調整し、民間による土地区画整理事業等の一体的なまちづくりを推進
 - ▶公共交通サービスの水準が確保されている
 - ▶生活サービス施設が充実している
 - ▶新たな公共・インフラ投資を増大させない等
 - ・工業地は、交通利便性が高く周辺環境と調和した質の高い工業地を一体的に提供する地区
- ※小松市都市計画マスタープランより

<例えば>



公共交通徒歩圏
生活サービス施設徒歩圏など

4. 可視化の今後の活用に向けた方向性②

バス停やバス路線が可視化されたことにより、地域交通の新たな展開（みんなで支えあう地域交通）に向けて『地域公共交通形成計画』策定への活用を期待

交通施策への活用

- ◆生活サービス施設や公共交通網が一目瞭然
- ・路線バス利用状況のデータ分析（区間・バス停別）
- ・多様な交通サービス展開案の共同研究・検討

地域公共交通形成計画への活用



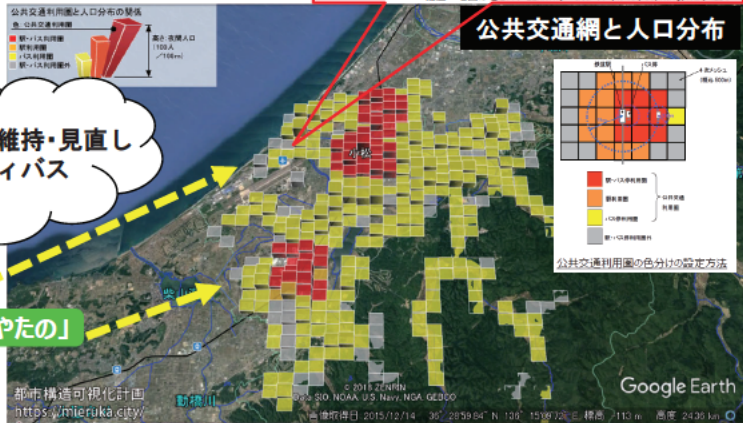
路線バスの維持・見直し
コミュニティバスの
利便性

<交通施策部門>

○様々な実証実験が進行中

小松鉄工団地「らくらく通勤」

矢田野地区「らくバスやたの」



5. 可視化の今後の活用に向けた方向性③

河川ごとの災害ハザード（浸水想定区域）を可視化することにより、様々な方向・角度から見え、避難経路検討など地域コミュニティ単位での防災意識の向上や市HPへの周知など活用の広がり期待

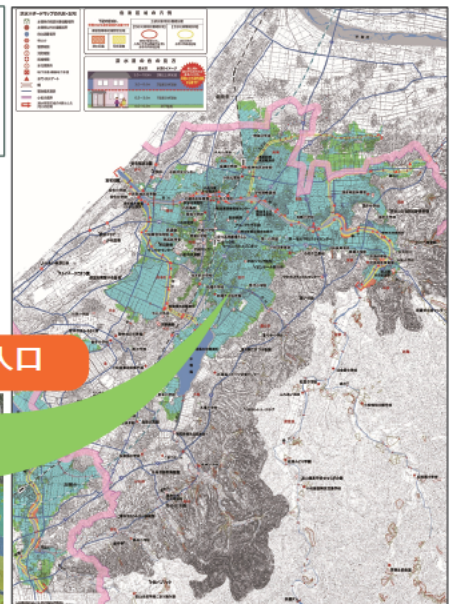
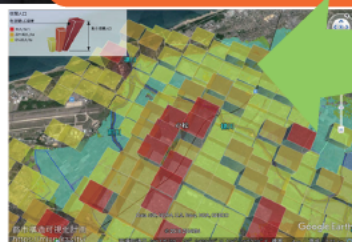
災害ハザードの可視化

- ◆河川ごとに浸水範囲が視覚的に理解できる
- ◆「わがまち」の防災などポイントを絞れる
- ・浸水深が3D化されると更なる防災意識に効果大



市HPへの活用
住民説明

浸水想定区域+夜間人口



<小松市洪水ハザードマップ>

6.まとめ

関係部署との意見交換を通じて、今後の方向性や活用方法についてとりまとめた。
また、どのように利用すると継続的な活用が出来るのかを探る。

今後の方向性や活用方法

- ◆可視化によりまちづくりへの課題が直感的に見えるため、『**交通政策**』や『**防災対策**』に活用の幅が大きいように感じる。
- ◆交通政策では、利用者の利便性と生活サービスの充実の検討ができる。
 - ・バス停や区間での利用者数の状況を可視化（データの取りまとめ）
 - ・生活サービス施設位置との一体化により、路線検討の見直しに具体性
- ◆防災対策では、各河川毎の浸水想定区域と避難所がより具体的に見える。
 - ・浸水想定が、様々な方向・角度から見え、避難経路検討への活用等
 - ・昼夜人口の動向や、道路網の交通対策にも活用可能では
（避難所の規模、交通センサスや道路網のデータ化も一つの対策）



継続的な活用のためには？

- ◆データの更新頻度や重ねたいデータが相互に反映できると「**見てもらいたいデータ**」や「**データの信頼性**」が高まる。
 - ・国勢調査データの即時反映やGoogleアースの地形データ更新（3D化されると）
- ◆可視化を見据えたデータ構築や可視化データの更新の容易さ
 - ・過去の統計データ（お宝）の掘りおこしや、職員自らが容易にできるデータ構築

石川県 小松市

都市の紹介